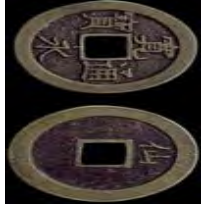


日本における大地震の歴史

時代	発生日・地震名・マグニチュード	被災状況	社会状況
江戸時代（一六〇三年～一八六八年）	17世紀前半、津波堆積物の分析から十勝沖から根室沖までを震源とするM8.6クラスの地震が発生したと推定されている。	詳細は不明	◎江戸時代とは  徳川家康が征夷大将軍になった1603年（慶長8年）権力の中核である幕府が江戸に置かれたのでこの呼称。
	1605年2月3日 （慶長：けいちょう9年12月16日） 関東から九州までの太平洋岸にM7.9～8の地震があり津波が発生した。南海トラフ津波地震説などの諸説があり（慶長地震） 初代将軍徳川家康	紀伊・阿波・土佐などで津波により大きな被害、八丈島でも津波による死者数十人。死者は1万～2万人と推定されるが、津波以外の被害はほとんどなかった。	◎徳川家康 江戸幕府初代将軍、三河岡崎城主松平広忠の長男。幼名を竹千代、のち元信、元康、家康と改めた。大坂冬・夏の陣で豊臣を滅ぼし、全国統一を完成した。
	1608年12月30日 （慶長：けいちょう13年11月23日） 仙台で地震が発生した。 第2代将軍徳川秀忠（ひでただ）	津波で50人死亡	 江戸城天守閣（再建されれば）
	1611年9月27日 （慶長：けいちょう16年8月21日） 会津でM6.9の地震が発生した。（会津地震） 第2代将軍徳川秀忠（ひでただ）	死者3700人	

日本における大地震の歴史

時代	発生日・地震名・マグニチュード	被災状況	社会状況
江戸時代（一六〇三年～一八六八年）	1611年12月2日 （慶長：けいちょう16年10月28日） 三陸沖付近でM8.1の地震が発生した。（慶長三陸地震） 第2代将軍徳川秀忠（ひでただ）	伊達領で大津波による死者 約2000～5000人	◎徳川幕府が制定した全国統一幣制    慶長大判 慶長小判 慶長一分金    慶長丁銀 慶長豆板銀 寛永通宝
	◎古からの言い伝え（仙台市：慶長三陸地震） ※浪分神社（なみわけじんじゃ） ※蛸薬師堂（たこやくしどう）   慶長三陸地震に伴い発生した大津波が当地を襲った。津波が二つに分かれ、その後、水が引いた場所だと伝わる。（津波が内陸まで来る伝え） 蛸薬師の本尊は、慶長三陸地震による津波が名取川・広瀬川を遡上し、その時に流れ着いた「蛸が吸い付いた薬師如来像」を祀ったものと。		
	1614年11月26日 （慶長：けいちょう19年10月25日） 新潟県直江津沖でM7.7の地震が発生した。（高田領大地震） 第2代将軍徳川秀忠（ひでただ）	越後高田藩では地震と津波により死者多数（詳細は不明） 京都では神社・民家が多数壊れ死者も出た、千葉県銚子では津波が発生した。	◎江戸の城下町（身分による土地の配分） 

※江戸市内の土地の占有率は、60%が武家地（武家は人口の7%）で、20%が町家、15%が寺で、残りの5%が神社であった。

日本における大地震の歴史

時代	発生日・地震名・マグニチュード	被災状況	社会状況
江戸時代（一六〇三年～一八六八年）	1615年6月26日 (慶長:けいちょう20年6月1日) 相模・江戸でM6の地震が発生した。 第2代将軍徳川秀忠(ひでただ)	小田原、江戸で被害	◎生活リズムはお日様次第 江戸の初期は日の出とともに起き、日の入りで就寝 ◎不定時法(夜明けから日暮れまでの時間を6等分)
	1616年9月9日 (元和:げんな2年7月28日) 宮城県沖でM7の地震が発生した。	仙台城が破損 三陸地方大津波	
	1619年5月1日(元和5年3月17日) 熊本県八代でM6の地震が発生した。	旧八代城が倒壊、大分県竹田城が破損した。	
	1625年7月21日 (寛永:かんえい2年6月17日) 熊本県でM5～6の地震が発生した。 第3代将軍徳川家光(いえみつ)	死者約50人 地震動により火薬庫爆発し、 熊本城が破損した。	
	1628年8月10日(寛永5年7月11日) 江戸でM6の地震が発生した。	江戸城の石垣が壊れた。	
	1633年3月1日(寛永10年1月21日) 相模・駿河・伊豆でM7. 1の地震が発生	小田原で死者110～150人 駿河・熱海で津波	
	1635年3月12日(寛永12年1月23日) 江戸でM6の地震が発生した。	大きな被害	
	1640年11月23日(寛永17年10月10日) 石川県加賀市でM6の地震が発生した。	死者多数	

日本における大地震の歴史

時代	発生日・地震名・マグニチュード	被災状況	社会状況
江戸時代（一六〇三年～一八六八年）	1644年10月18日（寛永21年9月18日） 秋田県でM6. 5の地震が発生した。	津波死者117名	◎お茶の歴史 鎌倉初期の栄西（えいさい）禅僧が我が国にもたらしたものとされています。日本の臨済宗の開祖で茶の採取・製法や効能などを記した「喫茶養生記」を著わした。 ◎茶碗の種類 産地別に、「唐物茶碗」「高麗茶碗」「国焼茶碗」となり、それぞれ中国、朝鮮、日本で焼かれた焼き物を指します。茶の湯でそれぞれの産地別に最高級とされる茶碗は、「曜変天目茶碗：ようへんてんもくちやわん」「大井戸茶碗：おおいどちやわん」「黒樂茶碗：くろらくちやわん」。 ◎国宝茶碗        
	1646年6月9日 （正保：しょうほう3年4月26日） 宮城県南部でM7. 6の地震が発生した	仙台城の石壁100m以上崩壊	
	1647年6月16日（正保4年5月14日） 神奈川県でM6. 5の地震が発生した。	江戸城の石垣や大名屋敷など 破損、小田原城に大きな被害	
	1648年6月13日 （慶安：けいあん元年4月22日） 相模・江戸でM7の地震が発生した。	小田原城破損、箱根で落石、 死者1名。	
	1649年3月17日（慶安2年2月5日） 安芸（広島）・伊予（愛媛）でM7地震 7月30日（慶安2年6月21日） 関東付近でM7. 1の地震が発生した。 9月1日（慶安2年7月25日） 関東付近でM6. 4の地震が発生した。	松山城、宇和島城の石垣や 堀が崩れる。 死者多数 川崎宿で大きな被害	
	1655年5月2日 （明暦：めいれき2年4月8日） 房総沖で地震が発生した。 第4代将軍徳川家綱（いえつな）	千葉県で津波	
	1659年4月21日 （万治：まんじ2年2月30日） 会津でM6～7の地震が発生した。	死者多数	

日本における大地震の歴史

時代	発生日・地震名・マグニチュード	被災状況	社会状況
江戸時代（一六〇三年～一八六八年）	1662年6月16日（寛文2年5月1日） 近畿北部でM7～7.6の地震が発生 10月31日（寛文2年9月20日） 宮崎県沖でM7.2～7.5地震が発生	死者数千人 死者多数	◎江戸時代の男子の遊び 
	1664年 沖縄島島付近で地震、海底火山の噴火	死者があり 津波があった	
	1666年2月1日（寛文5年12月27日） 越後高田でM6の地震が発生した。	死者1400～1500人	
	1670年6月22日（寛文10年5月5日） 越後村上でM6の地震が発生した。	死者13人	
	1671年2月27日（寛文11年1月18日） 紀伊水道沖でM7.3の地震が発生した	畿内、山陽道、南海道で強震	◎江戸時代の女子の遊び 
	1676年7月12日 （延宝：えんぼう4年6月2日） 島根県津和野でM6.5の地震が発生	津和野城の石垣が崩れ 領内で家が133倒壊した 死者7人	
	1677年4月13日（延宝5年3月12日） 青森県東方沖でM7～8の地震が発生 11月4日（延宝5年10月9日） 千葉県房総沖でM8の地震が発生	津波あり 死者500～600人 茨城県地方史上最大の津波被害あった。	

日本における大地震の歴史

時代	発生日・地震名・マグニチュード	被災状況	社会状況
江戸時代（一六〇三年～一八六八年）	1678年10月2日（延宝6年8月17日） 宮城県沖でM7. 5の地震が発生した。	死者1人	◎日本の香文化 飛鳥時代 推古三年（595年）淡路島に漂流した一本の流木を島人が火にくべたところ、かぐわしい香りが立ち上がり島人は驚愕した。その流木が都に運ばれ、聖徳太子がこれは「沈香：じんこう」とであると教えたそうです。 奈良時代 香文化は、仏教と共に「祈りの香」として伝わり、広まってゆきます。 平安時代 時を経て平安期の貴族たちによって生活文化の香りとなり、「雅の香り」となりました。 鎌倉時代 時を経て鎌倉時代から室町時代には、武将たちが荒々しい戦の合間、香りと茶を愛好しました。 室町時代 室町幕府八代将軍足利義政は、香を芸道としての体系作りの祖となりました。公家の三条西実隆（にしさねたか）公を祖とする「御家流」、武家の志野宗信（しのそうしん）を祖とする「志野流」の二大流派が誕生しました。 江戸時代 江戸時代には、豪農や町人の間にも広まり、一般庶民の教養として精神文化となりました。 明治～現代 そして現在は、“和の文化”暮らしに溶け込んでいます。
	1683年6月17日～10月20日 （天和：てんな3年5月～9月） 日光付近でM6～7の地震が発生した。 第5代将軍徳川綱吉（つなよし）	40年後に鬼怒川下流で台風によって堰止湖（せきとめこ）が決壊して死者約1200人	
	1686年1月4日 （貞享：じょうきょう2年12月10日） 広島・愛媛でM7～7. 4の地震が発生 10月3日（貞享3年8月16日） 静岡・三河でM7の地震が発生した。	死者有り 死者多数	
	1694年6月19日 （元禄：げんろく7年5月27日） 秋田県でM7の地震が発生した。	死者394人	
	1696年11月25日（元禄9年11月1日） 宮城県沖でM6. 5の地震が発生した。	石巻河口に津波、300隻をさらい、溺死者多数	
	1700年4月15日（元禄13年2月26日） 彦岐・対馬でM7. 3の地震が発生した。	石垣で家屋倒壊 九州北部でも被害	



※堰止湖とは、地震などで谷や川がせき止められてできた湖

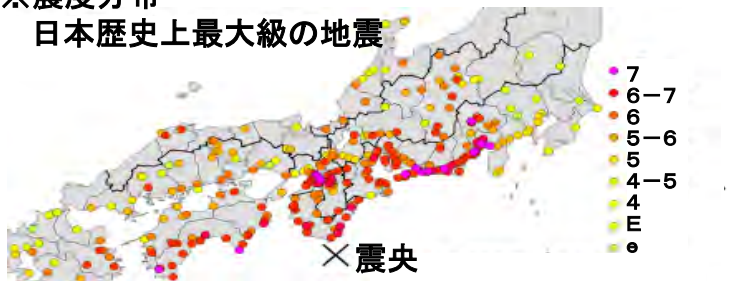
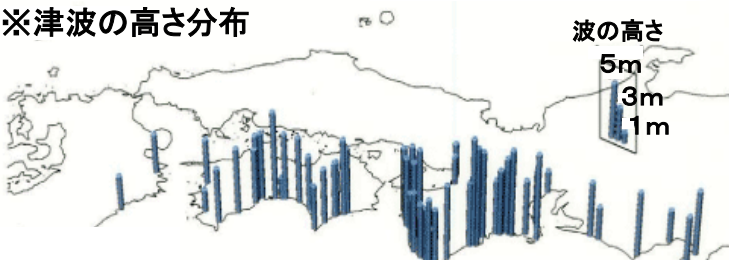
※沉香とは、樹木が土中に埋まり長期間を経て香木の状態になったもの

日本における大地震の歴史

時代	発生日・地震名・マグニチュード	被災状況	社会状況
江戸時代（一六〇三年～一八六八年）	1703年12月31日 (元禄16年11月23日) 関東でM8.1～8.2の地震が発生した Mw8.1～8.5(元禄地震) 同日、豊後：ぶんご(大分県)でM6.5の地震が発生した。	関東南部に津波 死者6700人 倒壊・流失した家屋約2万8千軒 豊後では、273家屋倒壊 死者1名	◎おさらい ・マグニチュード(magnitude、「大きさ」の意)とは、地震が発するエネルギーの大きさです。 ・モーメント・マグニチュードMw(moment、「瞬間」の意)地震の破壊エネルギーを表し、規模の大きい地震ほど正確に表す(w:workの略)大きな地震に使用されます ・log(logarithm、「対数」の意)とは、大きな数を扱う時に使用されています。 $10^{1.5} = 10^{3/2} = 10^{2/2} \times 10^{1/2} = 10 \times \sqrt{10} = 10 \times 3.12 \div 32$ となります。 $\log_{10} E = A$の場合、$E=10$のA乗です。 ・ジュールとは、仕事・熱量・エネルギーの単位です。
	1704年5月27日 (宝永：ほうえい元年4月24日) 羽後：うご・陸奥でM7の地震が発生	秋田県で被害大 死者58人	◎元禄地震の遺跡
	◎マグニチュードとは 日本で発生した地震には、地震の規模が無理なく表現できるように工夫された気象庁マグニチュードが用いられています。最近では、断層面の面積とずれの量などから求められる物理的な意味が明らかなモーメント・マグニチュード(Mw)もよく使用されます。 ※マグニチュードと地震のエネルギーの関係は 地震が発するエネルギーの大きさをE(単位：ジュール)、マグニチュードをMとすると、次の関係があります。 $\log_{10} E = 4.8 + 1.5M$。 ①この式からマグニチュードMが1大きくなると $\log_{10} E$が1.5だけ増加するからEは$10^{1.5} = 10\sqrt{10} \div 32$ エネルギーは約32倍に大きくなることがわかります。 ②この式からマグニチュードMが2大きくなると $\log_{10} E$が3だけ増加するからEは$(10^{1.5})^2 = 10^3 = 1000$ エネルギーは約1000倍に大きくなることがわかります。		 千葉県日枝神社供養碑  千葉県本興寺供養碑  千葉県浄泰寺供養碑

※一般的にマグニチュードは $M = \log_{10} A + B(\Delta, h)$ の形の式で表される。ここで、Aはある観測点の振幅、Bは震央距離Δや震源の深さhによる補正項である。

日本における大地震の歴史

時代	発生日・地震名・マグニチュード	被災状況	社会状況
江戸時代（一六〇三年～一八六八年）	1705年5月24日（宝永2年4月2日） 阿蘇山付近で地震が発生した。	死者があった	◎宝永地震（宝永4年10月4日） ※震度分布 日本歴史上最大級の地震  ※津波の高さ分布  ※宝永大噴火（富士山） 江戸幕府は石高100石に付き火山灰除去費用として2両を差し出させた。 
	1707年10月28日（宝永4年10月4日） 南海トラフ全域が震源域 M8. 4～8. 6（Mw8. 7～9. 3） （宝永地震） 10月29日（宝永4年10月5日） 宝永地震の16時間後に富士宮でM7の地震が発生した。 11月21日（宝永4年10月28日） 周防・長門でM5. 5地震が発生した。	死者4900～2万人以上 倒壊・流失家屋6万～8万軒 関東から九州まで津波 49日後に富士山の宝永大噴火	
	1708年2月13日（宝永5年1月22日） 紀伊半島沖でM7の地震が発生した。	紀伊・伊勢で津波 宮川などの堤防が決壊 宝永地震の余震と推定	
	1710年10月3日（宝永7年8月11日） 鳥取県でM6. 5の地震が発生した。 第6代将軍徳川家宣（いえのぶ）	山崩れ、死者多数	
	1711年3月19日（宝永8年2月1日） 鳥取県でM6の地震が発生した。	大山で山崩れ 死者4人	
	1714年4月28日 （正徳：しょうとく4年3月15日） 信濃でM6の地震が発生した。 第7代将軍徳川家継（いえつぐ）	山崩れ 死者56人	

※岩石が破壊するときに最初に壊れ始める地中の点を「震源」、「震源」の真上の地表の点を「震央」と呼んでいます。

日本における大地震の歴史

時代	発生日・地震名・マグニチュード	被災状況	社会状況
江戸時代（一六〇三年～一八六八年）	1715年2月2日（正徳4年12月28日） 大垣・名古屋・福井でM6. 5～7の地震	詳細は不明	◎元禄文化（1688～1704年） ※芸術  尾形光琳「燕子花図屏風：かきつばた」  菱川 師宣（ひしかわ もろのぶ）：『歌舞伎図屏風』 ※文学 俳諧：「奥の細道」（松尾芭蕉） 人形浄瑠璃：近松門左衛門 浮世草子：井原西鶴（いはらさいかく） ※学問や書物 歴史書：「大日本史」（徳川光圀） 数学：「和算の確率」（関孝和たかかず） 農学：「農業全書」（宮崎安貞やすさだ）
	1717年5月13日 （享保：きょうほう2年4月3日） 宮城県沖でM7. 5の地震が発生した。 第8代将軍徳川吉宗（よしむね）	陸前・陸中で津波や液状化により被害	
	1718年8月22日（享保3年7月26日） 三河でM7の地震が発生した。	死者50人	
	1723年12月19日（享保8年11月22日） 熊本県でM6. 5の地震が発生した。	死者2人 倒壊家屋400軒	
	1725年8月14日（享保10年7月7日） 諏訪でM6～6. 5の地震が発生した。	山崩れ 死者4人	
	1729年8月1日（享保14年7月7日） 能登半島でM6. 6～7の地震が発生	死者5人	
	1730年11月11日（享保15年10月2日） 茨城県沖でM7. 3の地震が発生した。	津波で船の流失あり	
	1731年10月7日（享保16年9月7日） 宮城県南部でM6. 5の地震が発生した	死者数名 家屋が倒壊	
	1741年8月29日 （寛保：かんぼう元年7月19日） 北海道西南沖の大島でM6. 9の火山性地震が発生した。（寛保津波）	死者2033人 大津波が発生	

日本における大地震の歴史

時代	発生日・地震名・マグニチュード	被災状況	社会状況
江戸時代（一六〇三年～一八六八年）	1751年5月21日 (寛延: かんえん4年4月26日) 新潟県でM7～7.4の地震が発生した。 第9代将軍徳川家重(いえしげ)	死者1541人	※彫刻  
	1762年10月31日 (宝暦: ほうれき12年9月15日) 佐渡島北方沖でM7の地震が発生した。 第10代将軍徳川家治(いえはる)	死者あり 液状化、津波、家屋流失	円空上人が彫った円空仏
	1763年1月29日(宝暦12年12月16日) 八戸沖でM7.4～7.9の地震が発生 3月11日八戸東方沖でM7.3の地震 3月15日青森県東方沖でM7の地震	津波あり 宝暦八戸沖地震の余震 宝暦八戸沖地震の余震	※服装(元禄小袖)   
	1766年3月8日 (明和: めいわ3年1月28日) 津軽でM7の地震が発生した。	死者約1500人	
	1769年8月28日(明和6年7月28日) 日向・豊後・肥後でM7.2の地震が発生	大分で被害が多く 津波もあり	※食事 
	1771年4月24日(明和8年3月10日) 沖縄県八重山でM7.4～M8の地震が発生した。Mw8.7 (明和の大津波)	死者約1万2000人	大奥の食事

日本における大地震の歴史

時代	発生日・地震名・マグニチュード	被災状況	社会状況
江戸時代（一六〇三年～一八六八年）	1772年6月3日（明和9年5月3日） 陸前・陸中でM6. 8～7. 4の地震発生	死者12人	◎寿司文化（江戸前寿司） 江戸で、新鮮なネタで寿司を客の前で即席で握るという発想で生まれた。この「握ったすし」を「江戸前寿司」と言ったという。庶民の食文化が発達した江戸時代、醤油、味噌とともに酢も庶民の食生活に普及した。   寿司の屋台 日本橋魚市のマグロ   歌川広重の鮓絵 偲ぶ与平衡の酢 江戸時代の握り寿司は現在の2～3倍と大きかった。一口では食べにくいので、包丁で二つに切って供するようになった。「2貫づけ」の起源となった。 
	1780年7月30日 （安永：あんえい9年6月19日） 庄内地方でM6. 5～M7. 4の地震発生	死者2人	
	1782年8月23日 （天明：てんめい2年7月15日） 小田原でM7の地震が発生した。	家屋約800軒破損	
	1786年3月22・23日 箱根山で群発地震が100回以上発生	詳細は不明	
	1789年5月11日 （寛政：かんせい元年4月17日） 阿波でM7の地震が発生した。 第11代将軍徳川家斉（いえなり）	津波あり	
	1792年5月21日（寛政4年4月1日） 雲仙普賢岳が噴火、長崎県でM6. 4の地震が発生した。 6月13日小樽方面でM7. 3の地震	熊本県で大津波が発生し 死者約1万5000人	
	1793年2月8日（寛政4年12月28日） 西津軽でM6. 9～7. 1の地震が発生 2月17日宮城県沖でM8～8. 4の地震が発生（寛政地震）	津波あり 津波で死者3人 死者約100人 津波あり	
	1799年6月29日（寛政11年5月26日） 金沢でM6. 7の地震が発生した。	死者640人	

日本における大地震の歴史

時代	発生日・地震名・マグニチュード	被災状況	社会状況
江戸時代（一六〇三年～一八六八年）	1802年12月9日 (享和:きょうわ2年11月15日) 佐渡でM6. 5～7の地震が発生した。	死者37人	◎外食産業の文化 町奉行所による文化8年(1811年)の調査結果 飲食店 酒屋 惣菜 菓子・甘味 名月の深夜(にぎわいを見せる庶民と屋台)
	1804年7月10日 (文化:ぶんか元年6月4日) 秋田県象潟(きさかた)でM7の地震発生	死者500～550人	
	1808年12月4日(文化5年10月17日) 紀伊半島沖でM7. 6の地震が発生した	弱い津波	
	1810年9月25日(文化7年8月27日) 男鹿半島でM6. 5の地震が発生した。	死者60人	
	1812年12月7日(文化9年11月4日) 神奈川県でM6. 4の地震が発生した。	死者多数	
	1819年8月2日 (文政:ぶんせい2年6月12日) 近江でM7の地震が発生した。	死者多数	
	1823年9月29日(文政6年8月25日) 岩手山でM6の地震が発生した。	山崩れで死者69人	
	1828年12月18日(文政11年11月12日) 越後三条でM6. 9の地震が発生した。	死者1681人	
	1830年8月19日(文政13年7月2日) 京都でM6. 5の地震が発生した。	死者280人	

日本における大地震の歴史

時代	発生日・地震名・マグニチュード	被災状況	社会状況															
江戸時代（一六〇三年～一八六八年）	1833年5月27日 (天保:てんぽう4年4月9日) 美濃西部でM6の地震が発生した。 12月7日庄内沖でM7の地震が発生	死者11人 死者40～130人	◎江戸四大飢饉 <table><tr><th>名称</th><th>被害の中心地</th><th>原因</th></tr><tr><td>寛永の大飢饉</td><td>全国(日本海側)</td><td>全国的な異常気象</td></tr><tr><td>享保の大飢饉</td><td>瀬戸内海沿岸</td><td>冷夏と虫害</td></tr><tr><td>天明の大飢饉</td><td>全国(特に東北)</td><td>浅間山噴火と冷害</td></tr><tr><td>天保の大飢饉</td><td>全国(特に東北)</td><td>大雨、洪水に冷夏</td></tr></table>	名称	被害の中心地	原因	寛永の大飢饉	全国(日本海側)	全国的な異常気象	享保の大飢饉	瀬戸内海沿岸	冷夏と虫害	天明の大飢饉	全国(特に東北)	浅間山噴火と冷害	天保の大飢饉	全国(特に東北)	大雨、洪水に冷夏
	名称	被害の中心地	原因															
	寛永の大飢饉	全国(日本海側)	全国的な異常気象															
	享保の大飢饉	瀬戸内海沿岸	冷夏と虫害															
	天明の大飢饉	全国(特に東北)	浅間山噴火と冷害															
	天保の大飢饉	全国(特に東北)	大雨、洪水に冷夏															
	1834年2月9日(天保5年1月1日) 石狩地方でM6. 4の地震が発生した。	81戸が全半壊																
1835年7月20日(天保6年6月25日) 宮城県沖でM7の地震が発生した。	死者多数 津波あり																	
1839年5月1日(天保10年3月18日) 釧路でM7の地震が発生した。 第12代将軍徳川家慶(いえよし)	詳細は不明																	
1843年4月25日(天保14年3月26日) 十勝沖でM7. 5～8の地震が発生した。	死者46人 津波あり																	
1847年5月8日 (弘化:こうか4年3月24日) 善行寺でM7. 4の地震が発生した。 5月13日新潟県でM6の地震が発生	死者約1万～1万3000人 死者20人以上																	
1853年3月11日 (嘉永:かえい6年2月2日) 小田原でM6. 7の地震が発生した。	死者20～100人																	

※天明の大飢饉
天明の大飢饉は、冷害の後に噴火した岩木山と浅間山の火山灰によって発生しました。
東北の南部は特にひどく、奥州の村々では、食べ物を求めて各地を放浪しました。
餓死者は30万とも50万とも言われています。

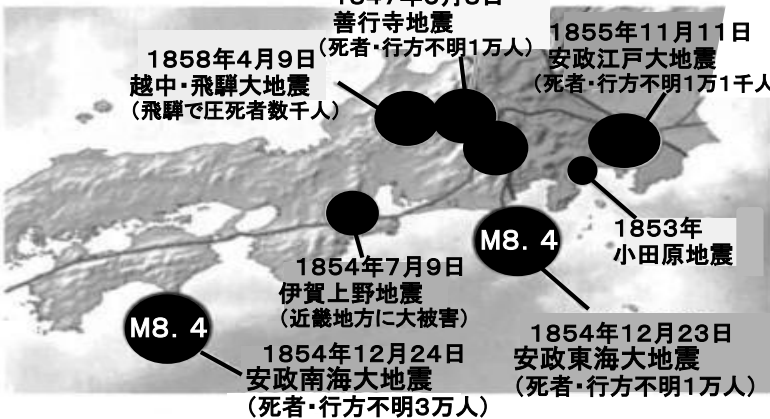


浅間山の噴火



坊さんに救われた少年

日本における大地震の歴史

時代	発生日・地震名・マグニチュード	被災状況	社会状況
江戸時代（一六〇三年～一八六八年）	1854年7月9日（嘉永7年6月15日） 伊賀上野でM7の地震が発生した。 12月23日東海道沖でM8. 4の巨大地震が発生Mw8. 6（安政東海地震） 12月24日南海道沖でM8. 4の巨大地震が発生Mw8. 7（安政南海地震） 12月26日大分県東側の豊予（ほうよ）海峡でM7. 3～M7. 5の地震が発生 第13代将軍徳川家定（いえさだ）	死者約1800人 死者2000～3000人 房総半島から四国に津波 死者1000～3000人 串本で最大波高さ11m	◎安政の大地震 安政東海大地震の前後11年間に発生した地震 
	1855年3月18日 （安政：あんせい2年2月1日） 飛騨でM6. 9の地震が発生 9月13日陸前でM7の地震が発生 11月7日遠州灘でM7～7. 5の地震 11月11日江戸でM7～7. 1の地震が発生（安政江戸地震）	死者少なくとも203人 津波あり 死者4700～1万1000人	 安政の大地震（江戸）
	1856年8月23日（安政3年7月23日） 三陸沖北部でM7. 5～8の地震が発生した。Mw8. 3	死者29人	
	1857年10月12日（安政4年8月25日） 伊予・安芸でM7の地震が発生した。	死者5人	

日本における大地震の歴史

時代	発生日・地震名・マグニチュード	被災状況	社会状況
江戸時代（一六〇三年～一八六八年）	1858年4月9日（安政5年2月26日） 富山県付近でM7.1の地震が発生した 7月8日東北地方太平洋側でM7～7.5の地震が発生した。	地震による死者数百人 河川が決壊で死者140人	◎江戸の娯楽 
	1861年2月14日 （万延：まんえん2年2月14日） 愛知県西尾市でM6の地震が発生した。 10月21日（文久：ぶんきゅう元年9月18日） 宮城県沖でM7.2の地震が発生した。 第14代将軍徳川家茂（いえもち）	死者あり 津波で家屋が倒壊	お花見風景 
			茶屋で茶とお菓子を楽しむ 
	京都・二条城「二の丸御殿」大広間で最後の将軍・徳川慶喜が大政奉還		花火見物（両国橋）